

(2)産学官交流事業

財団では、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学(以下、「奈良先端大」と記します)で生まれた革新的な科学技術等を産業界で積極的に活用していただくために、奈良先端大の研究成果や技術シーズの実用化に向けた取り組みを支援する「奈良先端大発 新産業創出支援事業」を平成16年度に立ち上げ、令和3年度も引き続き実施しています。

また、奈良先端大で生まれた先端的な研究成果、技術シーズ等を産業界に向けて発信する場、および奈良先端大と産業界との交流を図る場として「奈良先端大産学連携フォーラム」を実施しています。

奈良先端大発 新産業創出支援事業

地元の中小企業・ベンチャー企業等が、奈良先端大と連携して、奈良先端大で生まれた研究成果や技術シーズの実用化に向けた研究開発に取り組む場合に、その費用の一部を支援するものです。

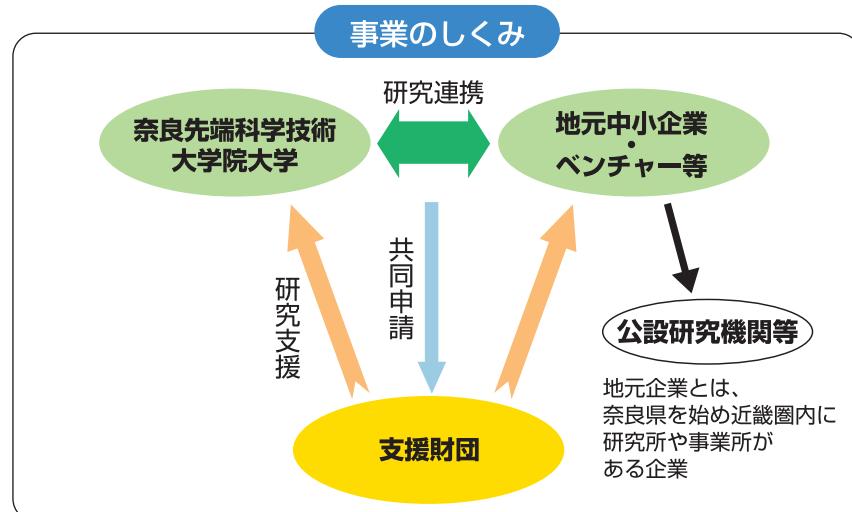
支援期間は原則として1年間(年度単位)、支援額は1件当たり最大100万円／年です。なお支援の継続を希望される場合は、再応募となり、連続2回、最大2年間までです。

令和3年度は下記の2件のテーマを支援しています。

【令和3年度支援テーマ】

	研究開発テーマ	奈良先端大研究者	連携企業
新規	プログラミング初心者が陥りやすいエラー傾向に着目した、AI学習サポートシステムの開発	情報科学領域 准教授 石尾 隆	(株)dTosh
継続	アミノ酸高生産ビール酵母の育種技術を活用した奈良県産クラフトビールの醸造	バイオサイエンス領域 教授 高木 博史	ゴールデンラビットビール

令和4年度分は令和3年度末に支援テーマを募集します。詳細は支援財団までお問い合わせ下さい。



新産業創出支援研究成果報告会

奈良先端大発新産業創出支援事業で支援した研究開発の成果報告会を年1回開催し、あわせて研究開発課題に関連する奈良先端大の研究設備の見学会を実施しています。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止し、講演資料は(公財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団ホームページにて公表しました。令和3年度は開催を予定しています。

なお、令和2年度の報告内容は次のとおりです。

【新産業創出支援研究成果報告(令和2年度)】

「クラウドAI制御・股関節拘縮予防装置の開発」

情報科学領域 教授 松本 健一
(合)EASE創研

「機能性アミノ酸を高生産する酵母の育種とビール醸造への応用」

バイオサイエンス領域 教授 高木 博史
ゴールデンラビットビール

「半導体絶対温度の高精度評価のための連続分光型放射温度計の開発」

物質創成科学領域 准教授 服部 賢
(株)ユニソク

「微細表面処理技術を活用した超撥水加工法の開発」

物質創成科学領域 准教授 安原 主馬
奥野製薬工業(株)

(令和元年度報告会の様子)



奈良先端大産学連携フォーラム

奈良先端大で生まれた先端的な研究や独創的な研究の成果を紹介するとともに、奈良先端大の研究者と産業界の研究者・技術者の交流の場を提供することを目的として、奈良先端大、(公社)関西経済連合会、当財団の共催でフォーラムを開催しています。

令和3年度開催については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画は見送りました。令和4年度からは、例年通り開催を予定しています。

(令和元年度フォーラムの様子)

